

第4A（中）分科会 組織・運営に関する課題

提案主題 生徒支援・生徒指導における危機管理

サブテーマ ～組織的な取り組みを行うために教頭としてどうかかわるか～

協議の柱 「校内の生徒支援・生徒指導体制を確立し、組織的生徒支援・生徒指導を行うために、教頭としてどのようにかかわればよいか。」

提言者 大分市立碩田学園 林 吾 郎

1 質 疑

- (1) Q 生徒指導部会と生徒支援部会の持ち方について
A 指導部会は問題行動やいじめ等、事案の把握・解決・生活改善等
支援部会は不登校・不登校傾向の生徒の実態把握・学校復帰・家庭支援等
学年の情報の共有（子どもの困り、取組）、方向性を明らかにする。
情報を掴む中で、支援を要する生徒をピックアップして支援を考える。

2 協 議

- (1) 小中の組織の違いがあるので、教頭の役割が変わってくる。チームで対応（担任一人、学校だけで抱え込まない）体制作りは必須である。
- (2) 小学校は、フリーの人員に限りがあるので、教頭が窓口（初期対応）になり、担当につなぐ流れが多い。
- (3) 小中連携が大切、中学校の組織的な取り組みを学ぶ、子供の情報交換、乗り入れ授業等を行う。
- (4) O J T、生徒指導や保護者対応が難しい教職員が増えている。ノウハウを伝える。
- (5) S CとS S Wとの違いを把握して状況に応じて活用していく。
- (6) “学校が楽しい、子供たちが楽しい”学校づくりを行う。分かる授業や教育相談等による信頼関係づくりが大切である。

3 指導助言

教頭の役割として組織をどのように動かしていくかが重要である。現在、県教委の「芯の通った学校組織推進プラン」～第2ステージ大分県版「チーム学校」実現プランについて～に従い全県で学校マネジメントが行われている。したがって、「芯の通った学校組織推進プラン」をもとに助言する。学校マネジメントには、組織マネジメントと目標達成マネジメントの2つがある。この2点を踏まえ助言する。

- (1) 目標達成マネジメントについて
 - ①生徒支援部会や生徒指導部会の目標が学校の重点目標や個人目標とどのように連動しているのかが見えずらい。それが連動していけば、学校全体として成果を共有できるのではない。目標管理評価が、期末勤勉手当に反映される点からもそのことは大切である。
- (2) 組織マネジメントについて
 - ①生徒支援、生徒指導部会の決定事項等をどのようにして周知するのか、教頭がコーディネートする役割がある。その際、5W+1Hを踏まえて周知することが大切である。いつ、誰が、何を、どのような場で、どのように周知するか。また、それは何のためにするのか、教職員のモチベーションに関わる。
 - ②学校内外の協働体制をどのように構築していくか、教頭の役割として大きい。鶴崎中は、校内的には協働体制ができているが、校外において縦の連携が不十分ではないだろうか。小中高の連携が見えない。特に大分市においては小中一貫教育の関係からも小中の連携が大切ではないか。
 - ③生徒支援部会と生徒指導部会を融合させた組織的な取組は、鶴崎中が成果を上げている点である。スピード感を持って対応できる組織になっている。
- (3) その他について
 - ①鶴崎中は生徒指導が難しい学校であるが、その中で学校が落ち着いてきているのは、生徒支援、生徒指導体制が機能している成果である。